

## 4. 歴史における境界(2) —マイノリティとマジョリティ

2025. 5.19. 大橋 幸泰

### はじめに

現代人も歴史的存在：私たちの常識・価値観は歴史的につくられたもの

\*たとえば、国家への帰属意識：それに支えられている国民国家も歴史的産物

国民国家：実際には虚構「想像の共同体」

→特に、**マイノリティの国民化に、国民国家の矛盾が先鋭的に表れる**

\*本日は、地域差・性差の矛盾を考える

### 1. 沖縄の場合

琉球処分：沖縄県の成立(1879)

→ヤマト(本土)では文明開化・近代化が推進される一方で、沖縄では旧慣温存の措置がとられる

\*旧支配層(士族)の反発を回避し、県政の安定化を企図

→日清戦争(1894)における日本の勝利を契機に、ヤマトの風俗・習慣・言語への同化が推進される

**=沖縄の人々への差別、沖縄独自の文化に対する否定、と表裏一体**

→差別への反発

a. 沖縄学の誕生：伊波普猷(1876-1947)に始まる、沖縄文化の独自性を再評価する学問

[特徴]

①ヤマトの人々に対して対等な関係呼びかける

②沖縄の人々に対して自己回復・自立化呼びかける

\*沖縄の独自性(個性：ユニークネス)を強調する一方で、一人前の「日本国民」への志向性を助長

b. 「他府県」並の願望への志向：「他府県」人からの「侮辱」に対する抵抗を生む

例：人類館事件(1903)、河上肇舌禍事件(1911)

c. 沖縄における自由民権運動の展開：「日本」国家への政治参加を要求

→沖縄人の日本国民(皇国民)化へ

→1930年代以降、日本の国家主義の拡大とともに同化への同意が過熱

a. 改姓改名運動

b. 標準語励行運動～方言撲滅運動：方言札の使用

### 2. 女性の場合

男性本位の大国化への違和感から、女性解放運動の気運上昇(1910代)：『青鞥』の発刊(1911)など

→平塚らいてう・市川房枝らによる婦選獲得運動へ(1920代)：婦人三権の獲得を志向

\*参政権(国政への参加権)、結社権(政治結社結成・加入の自由権)、公民権(地方自治への参加権)

→結社権・公民権を認める法案、衆議院通過(1931.2.)：しかし、貴族院の反対で不成立

→内外情勢の閉塞状況、軍部・右翼の発言権拡大：婦選獲得要求への逆風(1930代)

→女性解放運動の転換：国家への「同調」

a. 国民精神総動員運動(1937)への協力：「ぜいたくは敵だ」「欲しがりません勝つまでは」

b. 選挙粛正運動への参加(←政党政治への不信感、高揚)：議会政治否認を後押し

\*政党解散：大政翼賛会成立(1940)

→積極的な戦争協力：「女の務めは銃後の護り」

例、大日本国防婦人会(1932 発足→1942 大日本婦人会へ統合)の活動

### 3. マイノリティとマジョリティの関係

国民国家の矛盾：国民としての一体性という幻想の中で、マイノリティの個性・自立性を否定  
→マイノリティは差別を克服しようと、マジョリティに近づくことを企図  
→マイノリティの負担、増加  
\*マイノリティの犠牲のうえにマジョリティの秩序が貫徹

マイノリティの「個性」「自立」を保持する難しさ  
→マジョリティの枠組みを相対化する必要  
\*どうしたらマジョリティの秩序・枠組みを相対化できるか？

直接自分にかかわらないことへの無関心：結果としてマジョリティへ負担  
\*「無知は罪」との金言

#### おわりに

日本列島における多文化性  
→沖縄・アイヌだけでない：和人社会の地域性、在日外国人の存在、などを想起せよ  
\*日本列島の文化を単色で塗りつぶすことはできない  
→国民としての一体性という幻想の中で、マイノリティの個性・自立性を否定：国民国家の矛盾  
→「周縁」の人々は、差別を克服しようと「中心」に近づくことを志向：「周縁」の人々の負担、増加  
→「中心」というカテゴリー(マジョリティ)を相対化する必要

多様性を意識しつつ、マイノリティの「個性」「自立」をどのように保持するか？  
→既存の枠組み(現代人の常識)をどのように相対化するか  
\*たとえば、「日本史」という枠組み：国民国家「日本」の枠組みをそのまま前近代へ持ち込む危険性  
→歴史への向き合い方  
a. 歴史的に形成された枠組みを絶えず問い直すこと  
b. 歴史的に形成された枠組みにおける、中身の多様性を常に念頭に置くこと

#### 【参考文献】

歴史学研究会編『国民国家を問う』（青木書店、1994年）  
鹿野政直『沖縄の淵—伊波普猷とその時代』（岩波現代文庫、2018年）  
鹿野政直『婦人・女性・おんな』（岩波新書、1989年）  
総合女性史研究会編『時代を生きた女たち—新・日本女性通史』（朝日新聞出版〔朝日選書〕、2010年）  
久留島典子・長野ひろ子・長志珠絵編『歴史を読み替える ジェンダーから見た日本史』（大月書店、2015年）  
総合女性史学会編『ジェンダー分析で学ぶ女性史入門』（岩波書店、2021年）

#### 【付記】

・明日までに、Waseda Moodle にて講義記録の提出を求める。